



Google Drive



ConMas Manager

Googleドライブ,Box,BIM360DOCS連携 設定マニュアル

2022. 2.21
Rev1.1

改訂履歴

日付	バージョン	記載ページ	改訂内容
2020-11-14	V1.0	--	初版を発行しました。
2022-02-21	V1.1	--	Box,BIM360DOCS連携を追加しました。

目次

• 概要	4
• 本機能を利用するための前提条件	
• 事前設定 - 自動ファイル出力設定	5
• 自動出力ファイル設定設定	6
• Googleドライブに連携する場合の事前設定 Google側の設定	7
• Googleでの事前設定手順	8
• プロジェクトの作成とAPIの有効化	9
• サービスアカウント認証情報の作成	12
• OAuth2.0認証情報の作成	21
• Googleドライブに連携する場合の事前設定 ConMasManagerでの認証設定	
• Google認証登録	24
• Boxに連携する場合の事前設定 Boxの設定	28
• Boxでの事前設定手順	
• 1-1.マイアプリの作成	
• 1-2.マイアプリの作成	
• 1-3.マイアプリの作成	
• 1-4.マイアプリの作成	
• 2-1.アプリの承認	
• 2-2.アプリの承認	
• 2-3.アプリの承認	
• 3-1.アプリの設定	
• Boxに連携する場合の事前設定 ConMas Managerのbox連携設定	41
• Box連携設定	

目次

- BIM360DOCSに連携する場合の事前設定 BIM360DOCSの設定 43
 - BIM360DOCSでの事前設定手順
 - 1-1.Forgeアプリの作成
 - 1-2.Forgeアプリの作成
 - 1-3.Forgeアプリの作成
 - 1-4.Forgeアプリの作成
 - 2-1.アカウントとアプリの関連付け
 - 2-2.アカウントとアプリの関連付け
 - 2-3.アカウントとアプリの関連付け
 - 2-4.アカウントとアプリの関連付け
 - 2-5.アカウントとアプリの関連付け
 - 2-6.アカウントとアプリの関連付け
 - 2-7.アカウントとアプリの関連付け
- BIM360DOCSに連携する場合の事前設定 ConMas ManagerでのBIM360DOCS連携設定 56
 - BIM360DOCS連携設定

※目次は次ページへ続く

目次

- 帳票定義毎のアップロード先フォルダーの設定 (Googleドライブ,Box,Bim360DOCS共通) 58
 - 外部システム出力設定
 - 自動ファイル出力設定
- Googleドライブへの出力設定
 - Googleドライブへのアップロード設定
 - Googleドライブのアップロード先フォルダーの設定
 - 入力帳票単位のGoogleドライブ連携履歴情報の参照
- Boxへの出力設定
 - Boxへのアップロード設定
 - Boxのアップロード先フォルダーの設定
 - 入力帳票単位のBox連携履歴情報の参照
- BIM360DOCSへの出力設定
 - BIM360へのアップロード設定
 - BIM360DOCSのアップロード先フォルダーの設定
 - 入力帳票単位のBIM360DOCS連携履歴情報の参照
- 既存フォルダー配下に作成するフォルダーの設定 (Googleドライブ,Box,Bim360DOCS共通) 73
 - 既存フォルダー配下に作成するフォルダーの設定
 - Googleドライブでの設定例
- 注意事項

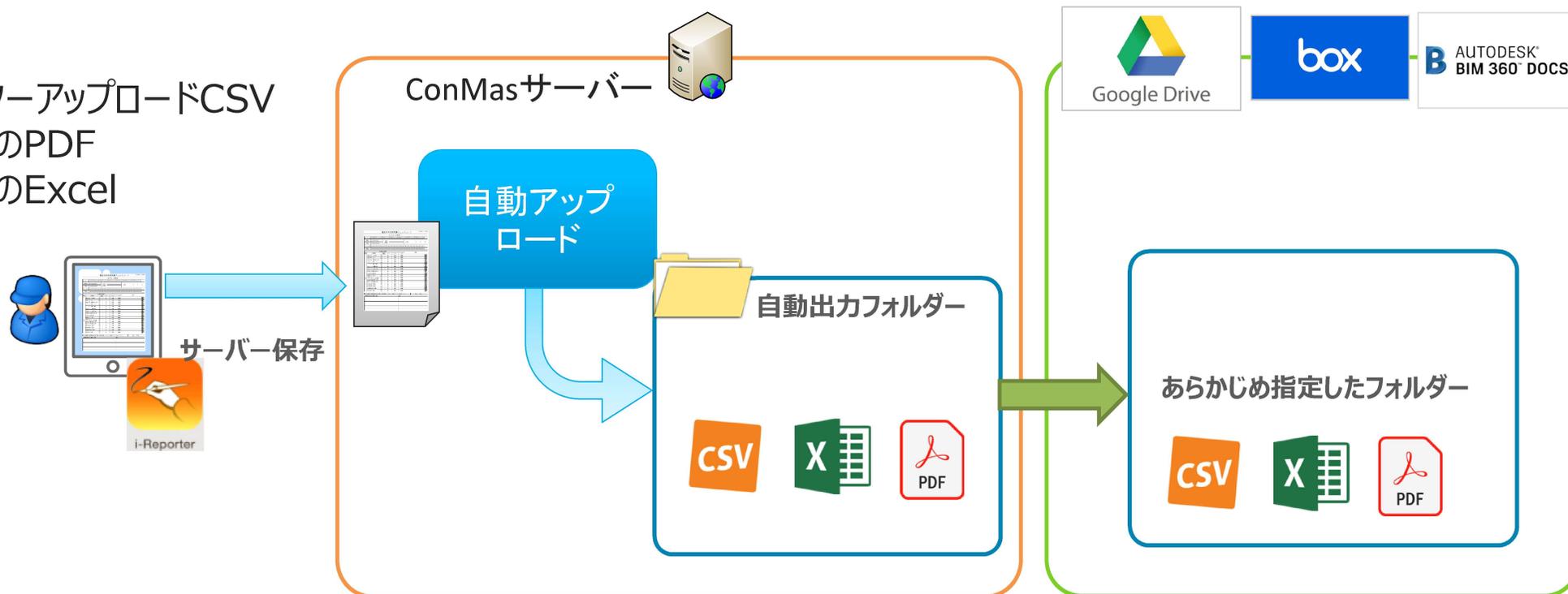
概要

自動ファイル出力機能で出力したファイルを、Googleドライブ、box, BIM360DOCSの指定した既存フォルダーへアップロードすることが出来ます。

既存フォルダーの配下には、指定した条件でフォルダー及びフォルダー階層を自動生成することも可能です。

アップロード可能なファイルは自動アップロード機能でアップロード可能なファイルがすべて対象です。

- XML
- CSV
- データアップロードCSV
- 帳票のPDF
- 帳票のExcel



本機能を利用するための前提条件

- GoogleドライブにアクセスできるGoogleアカウントがあること。
- BoxにアクセスできるBoxアカウントがあること。
- BIM360DOCSにアクセスできるAutoDeskアカウントがあること。
- ConMasManagerで自動ファイル出力機能がONの設定であること。
- ConMasサーバーが、Google、Box、BIM360DOCSへのアクセスが可能であること。

※i-Reporterクラウド版では、上記すべてのアクセスが可能です。

事前設定 - 自動ファイル出力設定

自動出力ファイル設定

本機能はi-Reporterの自動ファイル出力機能で出力したファイルをGoogleドライブ、box、BIM360DOCSへ連携する機能です。

あらかじめ、ConMas Managerで『**自動ファイル出力機能**』がONの設定であることが必要です。

※『ConMas Manager自動ファイル出力機能 操作説明書』を参照ください。

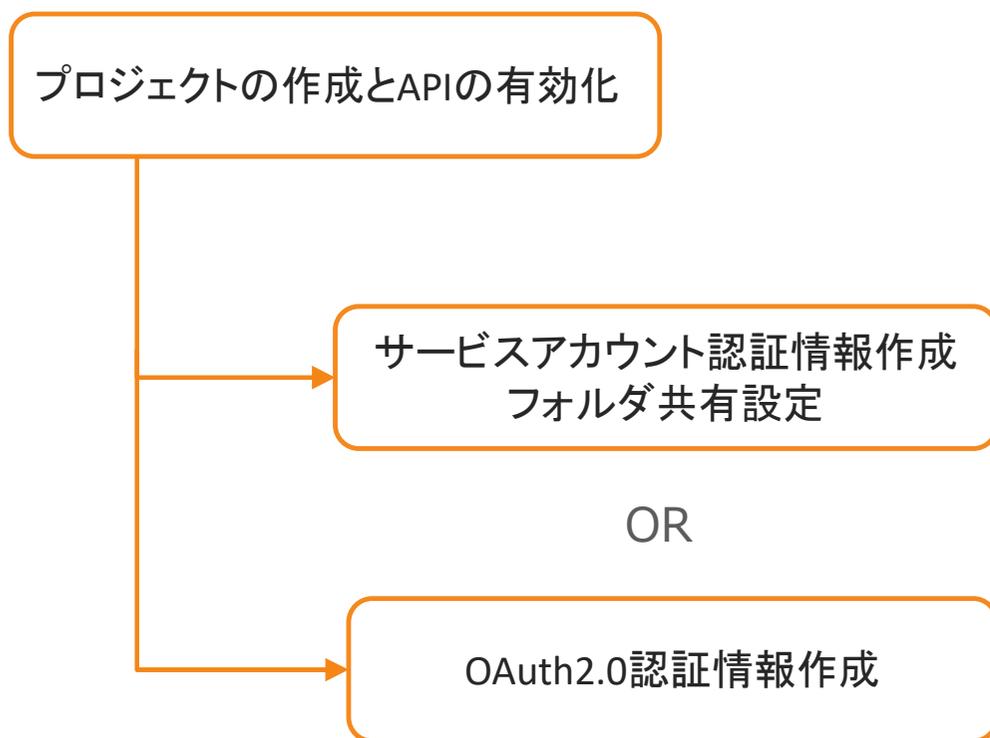
Googleドライブに連携する場合の事前設定

Google側の設定

Googleでの事前設定手順

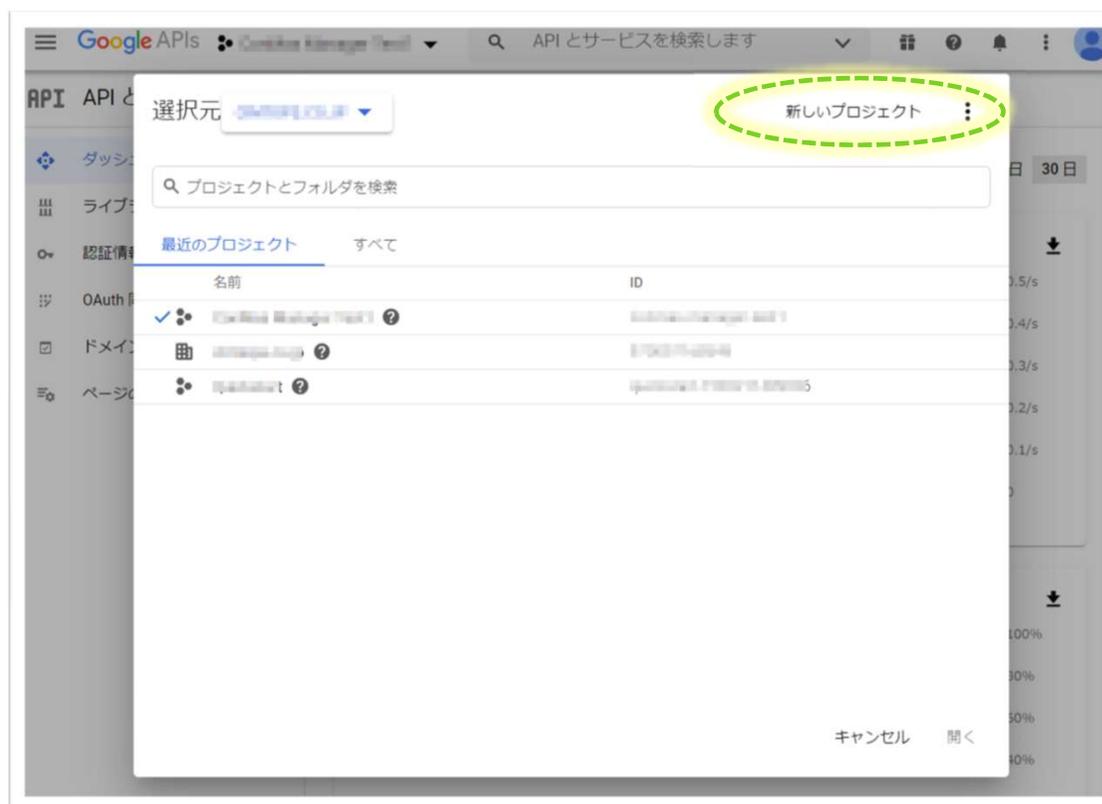
i-ReporterとGoogleドライブが連携するにはGoogle側での以下の事前設定を行う必要があります。
プロジェクト作成 + API有効化した後、『サービスアカウント認証』または『OAuth2.0認証』 のどちらかの設定を行います。

※サービスアカウント認証、OAuth2.0認証についてはこの情報は、Googleの認証の概要「プリンシパル」を参照ください。



プロジェクトの作成とAPIの有効化

1. Webブラウザで Google Developer Console
(<https://console.developers.google.com/>) にアクセスします。
2. 既存のプロジェクトを選択するか新しいプロジェクトを作成します。



プロジェクトの作成とAPIの有効化 2

3. GoogleドライブAPIを有効にします。

① ダッシュボード画面で「APIとサービスの有効化」をクリックします。



プロジェクトの作成とAPIの有効化 3

② 「有効にする」をクリックします。

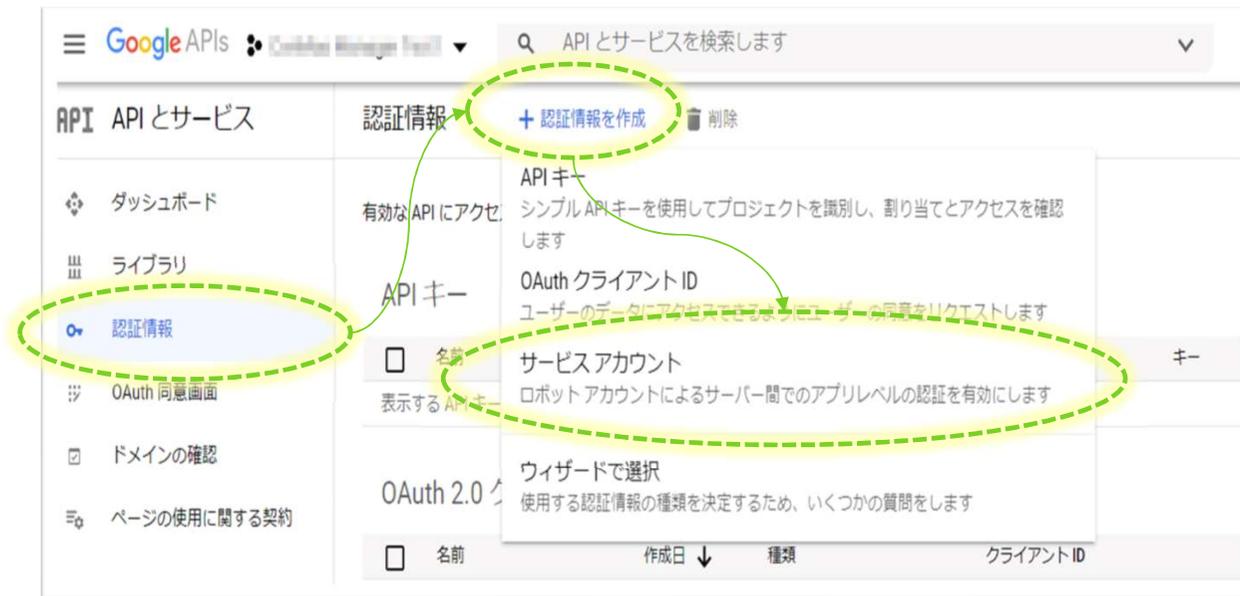
The screenshot shows the Google APIs console interface for the Google Drive API. At the top, there is a search bar with the text 'API とサービスを検索します'. Below the search bar, the API name 'Google Drive API' is displayed along with the Google logo and the text 'The Google Drive API allows clients to access resources from Google Drive'. A blue button labeled '有効にする' (Enable) is highlighted with a red dashed circle, and a tooltip below it says 'クリックしてこのAPIを有効にします'. To the right of the '有効にする' button is a link 'このAPIを試す' (Try this API). Below the main content, there are tabs for '概要' (Overview) and 'ドキュメント' (Documentation). The '概要' tab is selected, showing a summary of the API and its details.

概要	詳細
The Google Drive API allows clients to access resources from Google Drive.	タイプ: APIs & services
Google の概要	最終更新日: 2019/12/10
Google's mission is to organize the world's information and make it	カテゴリ: Storage, G Suite
	サービス名: drive.googleapis.com

サービスアカウント認証情報の作成

1. サービスアカウント認証情報を作成します。

① 認証情報画面で「認証情報を作成」から「サービスアカウント」を選択します。



サービスアカウント認証情報の作成 2

- ② 任意のサービスアカウント名を入力して「完了」をクリックします。
(「このサービスアカウントにプロジェクトへのアクセスを許可する」と
「ユーザーにこのサービスアカウントへのアクセスを許可」は省略して構いません。)

The screenshot shows the 'IAM と管理' (IAM and Management) console. The left sidebar lists various IAM features, with 'サービスアカウント' (Service Accounts) selected. The main content area is titled 'サービスアカウントの作成' (Create Service Account). It contains a form with the following fields and buttons:

- 1 サービスアカウントの詳細** (Service Account Details):
 - サービスアカウント名 (Service Account Name): user01
 - このサービスアカウントの表示名 (Display Name for this Service Account):
 - サービスアカ... (Service Account): user01 @example-manager-test1.kan.gcp.gcp.com
 - サービスアカウントの説明 (Service Account Description): このサービスアカウントで行うことを説明します
- 作成** (Create) button
- 2 このサービスアカウントにプロジェクトへのアクセスを許可する (省略可)** (Optional: Grant this service account access to the project)
- 3 ユーザーにこのサービスアカウントへのアクセスを許可 (省略可)** (Optional: Grant users access to this service account)
- 完了** (Complete) button
- キャンセル** (Cancel) button

サービスアカウント認証情報の作成 3

③ 作成したサービスアカウントの編集アイコンをクリックします。

The screenshot shows the AWS IAM console interface. On the left is a navigation menu with options like 'ダッシュボード', 'ライブラリ', '認証情報', 'OAuth 同意画面', 'ドメインの確認', and 'ページの使用に関する契約'. The main area is titled 'API とサービス' and '認証情報'. Below this, there's a section for 'サービス アカウント' with a table listing accounts. The table has columns for '名前', 'すべてのサービスの使用状況 (過去 30 日)', and an edit/delete icon. The 'user01' account is highlighted, and a green dashed circle with an arrow points to its edit icon.

名前	すべてのサービスの使用状況 (過去 30 日)	
メール		
user01@comms-manager- sewf.iam.gserviceaccount.com	user01 0	

④ 「鍵を追加」から「新しい鍵を作成」を選択します。

The screenshot shows the 'user01' service account key management page. The left navigation menu includes 'IAM と管理', 'IAM', 'ID と組織', 'ポリシーに関するトラブ...', '組織のポリシー', 'サービス アカウント', 'ラベル', '設定', and 'Identity-Aware Proxy'. The main area shows the 'キー' section with instructions on adding keys. A green dashed circle highlights the 'キーを追加' dropdown menu, and another green dashed circle highlights the '新しい鍵を作成' option within that menu.

キー

新しい鍵ペアを追加するか、既存の鍵ペアから公開鍵証明書をアップロードしてください。公開証明書は RSA_X509_PEM の形式にする必要があることに注意してください。
[アップロード鍵の形式の詳細](#)

キーを追加 ▼

新しい鍵を作成

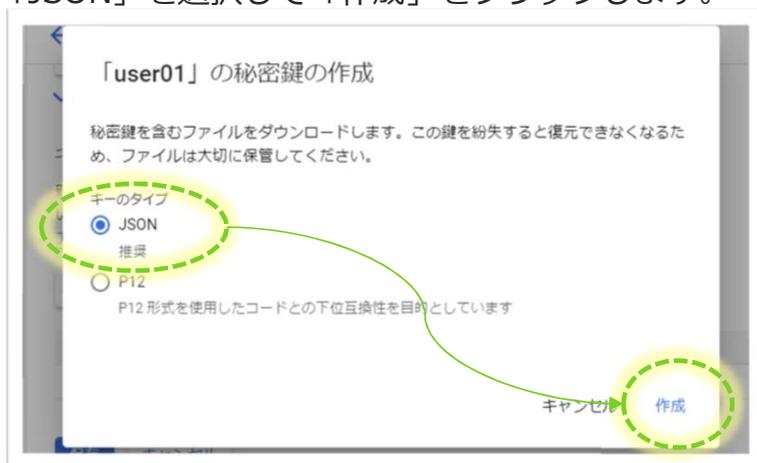
既存の鍵をアップロード

キーの作成日 鍵の有効期限

保存 キャンセル

サービスアカウント認証情報の作成 4

- ⑤ 「JSON」を選択して「作成」をクリックします。



- ⑥ アップロードされたファイルを保存します。



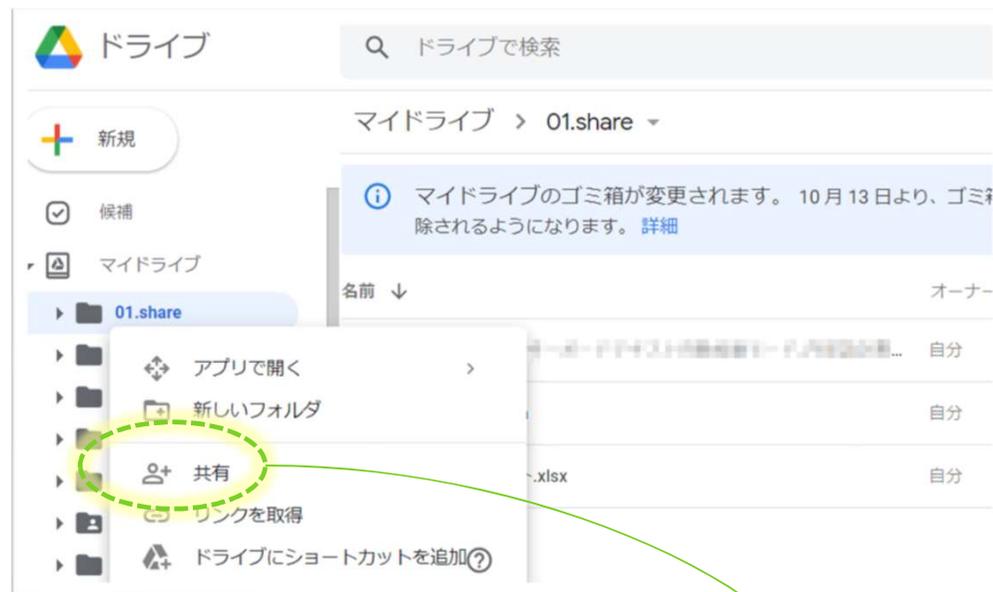
ダウンロードしたファイルは、P25『ConMasManager Google認証登録』で使用します。

サービスアカウント認証情報の作成 5

2. 連携対象のGoogleドライブフォルダに共有設定をします。

2-1. 任意のユーザーのマイドライブ配下のフォルダを共有する場合

① 対象のフォルダを右クリックして「共有」を選択します。



② 作成したサービスアカウントのメールアドレスを入力してサジェストされたアカウントを選択します。



サービスアカウント認証情報の作成 6

- ③ 「編集者」を選択して「送信」をクリックします。
(通知はされないのでOFFにしても構いません)



- ④ 「組織外のメンバーと共有しますか？」のダイアログが表示された場合は、「このまま共有」をクリックします。



サービスアカウント認証情報の作成 7

2-2. 共有ドライブ配下のフォルダを共有する場合

- ① 対象のフォルダを右クリックして「共有」を選択します。
(対象の共有ドライブが管理者のユーザーでログインしている必要があります。)



- ② 作成したサービスアカウントのメールアドレスを入力してサジェストされたアカウントを選択します。



サービスアカウント認証情報の作成 8

- ③ 「コンテンツ管理者」または「投稿者」を選択して「送信」をクリックします。
(通知はされないのでOFFにしても構いません)

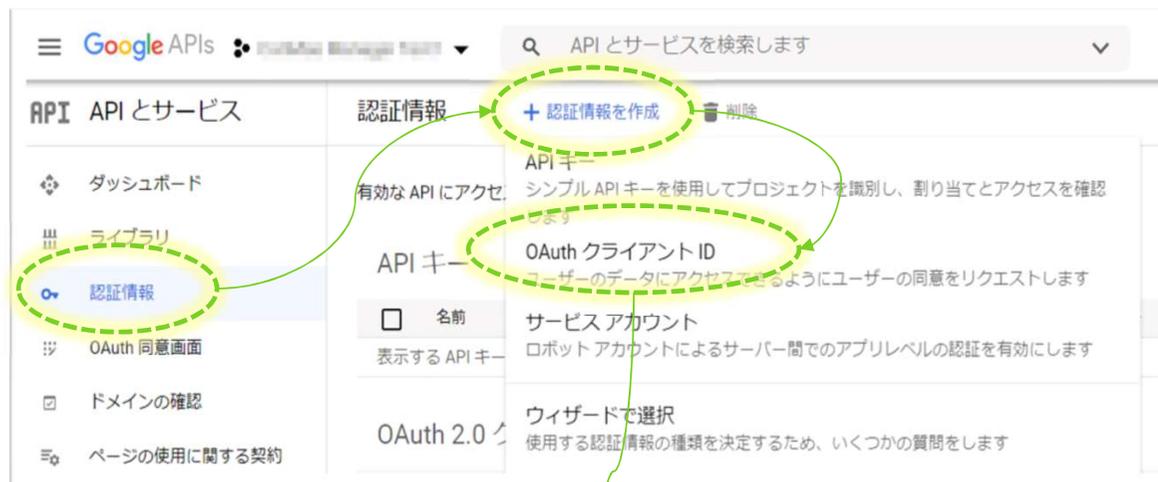
- ④ 「組織外のメンバーと共有しますか？」のダイアログが表示された場合は、「このまま共有」をクリックします。



OAuth2.0認証情報の作成

1. OAuth2.0認証情報を作成します。

- ① 認証情報画面で「認証情報を作成」から「OAuth クライアント ID」を選択します。



- ② 「アプリケーションの種類」に「ウェブアプリケーション」を選択します。



OAuth2.0認証情報の作成 2

- ③ 「名前」に任意の名称を入力し、「承認済みのリダイレクトURI」の「URIを追加」をクリックして下記のリダイレクトURLを入力し、「作成」をクリックします。

★リダイレクトURL の設定方法

http(s)://[ホスト名]/ConMasManager[識別子]/SystemGoogleAuthCallback/IndexAsync

The screenshot shows the 'OAuth クライアント ID の作成' (Create OAuth Client ID) page. On the left is a navigation menu with 'API とサービス' (API & Services) selected. The main content area is titled 'OAuth クライアント ID の作成' and includes a sub-header '承認済みのリダイレクト URI' (Authorized redirect URIs) with a help icon. Below this, there is a text input field labeled 'URI' containing the URL 'https://example.com/ConMasManager/SystemGoogleAuthCallback/IndexAsync'. A green dashed oval highlights this input field. There are '+ URI を追加' (Add URI) buttons above and below the field. At the bottom, there are '作成' (Create) and 'キャンセル' (Cancel) buttons.

OAuth2.0認証情報の作成 3

④ 作成したOAuth 2.0 クライアント ID のダウンロードアイコンをクリックして認証ファイルを保存します。

API API とサービス

認証情報 + 認証情報を作成 削除

有効な API にアクセスするための認証情報を作成します。 [詳細](#)

API キー

<input type="checkbox"/>	名前	作成日 ↓	制限	キー
表示する API キーがありません				

OAuth 2.0 クライアント ID

<input type="checkbox"/>	名前	作成日 ↓	種類	クライアント ID			
<input type="checkbox"/>	ConMas Manager	2020/10/22	ウェブ アプリケーション	...			
<input type="checkbox"/>	...	2020/02/17	ウェブ アプリケーション	...			

サービス アカウント [サービス アカウントを管理](#)

ダウンロードしたファイルは、P25『ConMasManager Google認証登録』で使用します。

Googleドライブに連携する場合の事前設定 ConMasManagerでの認証設定

Google認証登録

ConMasManager - システム管理 - Google認証登録で、『サービスアカウント認証情報』 または『OAuth2.0認証情報』で作成したファイルをアップロードします。

- Googleドライブへファイルアップロードする時のアカウントをここで決定します。

認証方法が『サービスアカウント認証』か『OAuth2.0認証』を選択します。

登録情報

キー	[Redacted]
メールアドレス	[Redacted]

認証登録が行われると登録情報として、キーとメールアドレスが表示されます。

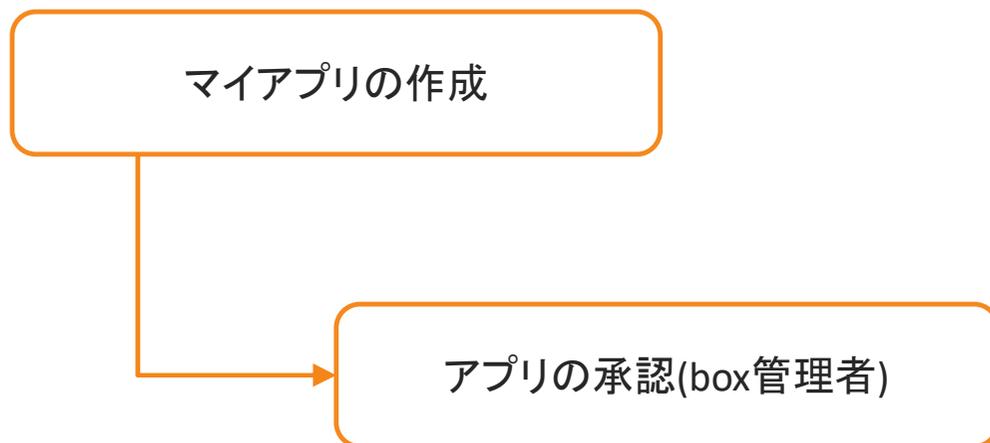
Boxに連携する場合の事前設定 Boxの設定

Boxでの事前設定手順

i-ReporterとBoxが連携するにはBoxで以下の事前設定が必要です。

1. Boxで連携用のアプリを作成します。
2. アプリを承認します。※承認できるのはBoxの管理者アカウントです。
3. アプリの設定

Boxとi-Reporter間には認証にサーバー認証(クライアント資格情報許可)を使用し、サービスアカウントで連携します。



1-1. マイアプリの作成

1-1. Webブラウザで Boxにログインし、開発者コンソールにアクセスします。



1-2. マイアプリの作成

1-2. マイアプリで「アプリの新規作成」を選択します。



1-3. マイアプリの作成

1-3. アプリタイプは「カスタムアプリ」を選択します。

box 開発者

マイアプリ
APIドキュメント
SDK
サポート

マイアカウントに戻る

box 開発者

マイアプリ
APIドキュメント
SDK
サポート

マイアカウントに戻る

マイアプリ > アプリの新規作成

最初にアプリタイプを選択します

カスタムアプリ

多くのアプリと統合に最適です。サーバー間のアプリとエンドユーザーアプリの両方をサポートしています

- ✓ 目的の認証方法 (ユーザーまたは Enterprise) を選択します
- ✓ アプリケーションのアクセス権限 (スコープ) を選択します
- ✓ Webhookを作成します
- ✓ アプリをアプリギャラリーに公開するか、統合として公開します
- ✓ Enterprise内のすべてのファイルおよびユーザーへのアクセス権限をリクエストします

ドキュメントを表示

アクセス制限付きアプリ

Box Viewアプリや、別のアプリケーションでBox内のコンテンツをプレビューするのに最適です

- ✓ アプリトークンを使用してサーバー側で認証します
- ✓ Enterprise内のすべてのファイルおよびユーザーへのアクセス権限をリクエストします
- ✗ 一部のAPIエンドポイントにアクセスできません
- ✗ スコープを編集できません。デフォルトのスコープが設定されています
- ✗ Enterpriseにデータを保存できません
- ✗ アプリをアプリギャラリーに公開できません

ドキュメントを表示

Box Custom Skill

外部サービスを使用してメタデータでコンテンツを強化するアプリに最適です

- ✓ Box内のファイルの更新に基づいて、サードパーティのサービスにコンテンツを送信します
- ✓ Boxが提供するセキュアトークンを利用して、サービス間で簡潔かつ安全にデータを転送します
- ✓ サードパーティのサービスからの情報に基づいて、Boxファイルにメタデータを作成します
- ✗ スキルはアプリギャラリーに公開できません

ドキュメントを表示

キャンセル

キャンセル

1-4. マイアプリの作成

1-4.作成するアプリの内容を設定し、「アプリの作成」をクリックするとマイアプリにアプリが作成されます。

カスタムアプリ

認証方法を選択して、アプリの名前を入力します。名前は後で [一般設定] で変更できます。

認証方法

- サーバー認証 (JWT使用)
 - 外部コラボレータとの統合やアプリの構築に最適です。 [詳細を表示](#)
 - アプリがJSONウェブトークンを使用して認証を行います。セキュリティを強化するには、公開キーと秘密キーのペアが必要です。
- ユーザー認証 (OAuth 2.0)
 - モバイルアプリやウェブアプリの構築に最適です。 [詳細を表示](#)
 - ユーザーがBoxログインを使用して認証を行う必要があります。
- サーバー認証 (クライアント資格情報許可)**
 - スクリプト処理とバックオフィスの統合に最適です。 [詳細を表示](#)
 - アプリがクライアントIDとクライアントシークレットを使用して認証を行います。

アプリ名

ConMasManager

[アプリの作成] をクリックすると、Box Developer契約規約およびBoxプライバシーポリシーに同意したことになります。

キャンセル **アプリの作成**

① 認証方法に「サーバー認証(クライアント資格情報許可)」を選択します。

② アプリ名に任意の名称を入力します。

③ 「アプリの作成」をクリックします。

2-1. アプリの承認

2-1. 作成したアプリを承認します。

※この操作はboxの管理者でおこなってください。

The screenshot shows the 'ConMasManager' interface with the '承認' (Approval) tab selected. The page content includes:

- Navigation tabs: 一般設定, 構成, Webhook, **承認**
- Text: 管理者にアプリの承認を送信して管理します
- Section: Enterpriseへのアクセス権限に対する承認を得るためにアプリを送信
- Text: リクエストするアクセス権限に基づいて、承認を得るためにアプリを送信してください。管理者はリクエストのメールを受信します。リクエストが承認または拒否されると、メールが届きます。
- Text: アプリ承認の詳細を表示
- Button: 確認して送信
- Text: 送信後に変更を加えた場合は、アプリを再送信する必要があります

Two callout boxes provide instructions:

- ① 作成したアプリの「承認」タブを選択します。
- ② 「確認して送信」をクリックします。

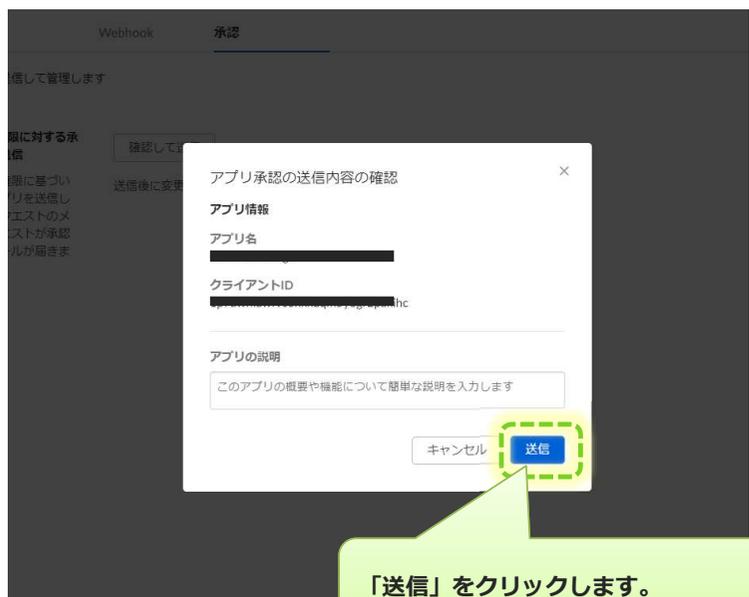
2-2. アプリの承認

2-2.「送信」をクリックすると**boxの管理者アカウント**に登録されているメールアドレスにメールが送信されます。

管理者はメールの内容に従って承認します。

※設定者がbox管理者でない場合は、box管理者へ作業依頼してください。

設定者



管理者



2-3. アプリの承認

2-3.承認が完了するとサービスアカウントが作成されます。

The screenshot shows the 'ConMasManager' application approval page in the 'box' portal. The left sidebar contains navigation items: 'マイアプリ', 'APIドキュメント', 'SDK', and 'サポート'. The main content area is titled 'ConMasManager' and has tabs for '一般設定', '構成', 'Webhook', and '承認'. The '承認' tab is active, showing the application's approval status and details.

ConMasManager

一般設定 構成 Webhook 承認

アプリの承認をリクエストし、コラボレータを管理します

アプリ情報

アプリに関する一般的な情報を更新します。

アプリ名
ConMasManager

連絡先メール
xxxxx@example.com

作成日
2021年9月16日 10:58:45 JST

ユーザーID
17113947915

Enterprise ID
843190475

ユーザーID

Enterprise ID

サービスアカウント情報

このアプリが承認されると、サービスアカウントが自動的に生成されます。このアカウントは、あなたのアプリのユーザーとして使用されます。デフォルトでは、アプリはこのユーザーとしてAPI呼び出しを行います。このユーザーの詳細を表示

Service Account ID

SA [redacted] Service Account

マイアカウントに戻る

3-1. アプリの設定

3-1. i-Reporterからboxにフォルダ、ファイルを作成できるように設定します。

The screenshot shows the '構成' (Configuration) page for the 'iReporter' application in the ConMasManager interface. The page is divided into several sections: 'アプリケーションスコープ' (Application Scope), 'コンテンツ操作' (Content Operations), '管理操作' (Management Operations), and '開発者操作' (Developer Operations). Three callout boxes provide instructions:

- ① 作成したアプリの「構成」タブを選択します。** (Select the 'Configuration' tab of the created application.) - Points to the '構成' tab in the top navigation bar.
- ② 「Boxに格納されているすべてのファイルとフォルダへの書き込み」にチェックを入れます。** (Check 'Write to all files and folders stored in Box'). - Points to the checked checkbox under 'コンテンツ操作'.
- ③ 「変更を保存」をクリックします。** (Click 'Save Changes'). - Points to the '変更を保存' button in the top right corner.

The 'コンテンツ操作' section contains the following text and options:

コンテンツ操作

- Boxに格納されているすべてのファイルとフォルダの読み取り
コンテンツへのアクセスは、ユーザーの権限と使用するアクセストークンによってさらに制限されます。
- Boxに格納されているすべてのファイルとフォルダへの書き込み
ファイルとフォルダをダウンロードするために必要です。コンテンツへのアクセスは、ユーザーの権限と使用するアクセストークンによってさらに制限されます。書き込みアクセス権限を選択する場合、読み取りアクセス権限が必要です。

管理操作

- ユーザーを管理する
- グループを管理する
- リテンションポリシーを管理する
ガバナンスアドオンで使用します。
- Enterpriseのプロパティを管理する
イベントストリーム、Enterpriseの属性、デバイスの管理で使用します。このスコープを使用するには、アプリ + Enterpriseアクセスが必要です。

開発者操作

- コンテンツへのアクセスは、ユーザーの権限と使用するアクセストークンによってさらに制限されます。

3-2. アプリの設定

3-2. Managerの「Box連携設定」に登録するクライアントシークレットを作成します。

ConMasManager
一般設定 構成 Webhook 承認

認証方法とアプリの権限を管理します

OAuth 2.0資格情報
認証タイプとしてOAuth 2.0を使用するための資格情報です。

クライアントID
lp7awE11awfvc0nxxdqm5y6gr2pakihc コピー

クライアントシークレットを取得

アプリアクセスレベル
アプリアクセスレベルは、アプリがアクセスできるユーザーおよびコンテンツを指定します。すべてのサーバー間のアプリは、デフォルトで、サービスアカウント(自動化ユーザー)のアクセストークンを使用して認証を行います。サービスアカウントの詳細を表示。

アプリアクセスのみ	アプリ + Enterpriseアクセス
<ul style="list-style-type: none">サービスアカウントとApp Userのみ。詳細を表示アプリによって作成されたコンテンツへのアクセス。Enterprise設定、コンテンツ、ユーザーの管理は不可。	<ul style="list-style-type: none">すべてのユーザーEnterprise設定、コンテンツ、ユーザーの管理。外部の管理対象外ユーザーへの制限付きアクセス。

「クライアントシークレットを取得」をクリックします。

注意事項
2段階認証が有効になっている環境の場合は、別途認証コードが必要です。詳しくはBoxサポートにご確認ください。

3-3. アプリの設定

3-3. Managerの「Box連携設定」に登録する3つの情報を控えます。

- ・クライアントID (Client ID)
- ・クライアントシークレット (Client Secret)
- ・Enterprise ID

The image shows two screenshots of the ConMasManager web interface. The left screenshot shows the '構成' (Configuration) tab, and the right screenshot shows the '一般設定' (General Settings) tab. Green callouts and dashed boxes highlight specific fields and steps.

① 「構成」タブを選択します。

② 「クライアントID」と「クライアントシークレット」をコピーして控えます。

③ 「一般設定」タブを選択します。

④ 「Enterprise ID」を控えます。

ConMasManager 構成

認証方法とアプリの権限を管理します

OAuth 2.0資格情報

認証タイプとしてOAuth 2.0を使用するための資格情報です。

クライアントID

クライアントシークレット

リセット

ConMasManager 一般設定

アプリの承認をリクエストし、コラボレータを管理します

アプリ情報

アプリに関する一般的な情報を更新します。

アプリ名

ConMasManager

連絡先メール

xxxxx@example.com

作成日

2021年9月16日 10:58:45 JST

ユーザーID

17412967915

Enterprise ID

サービスアカウント情報

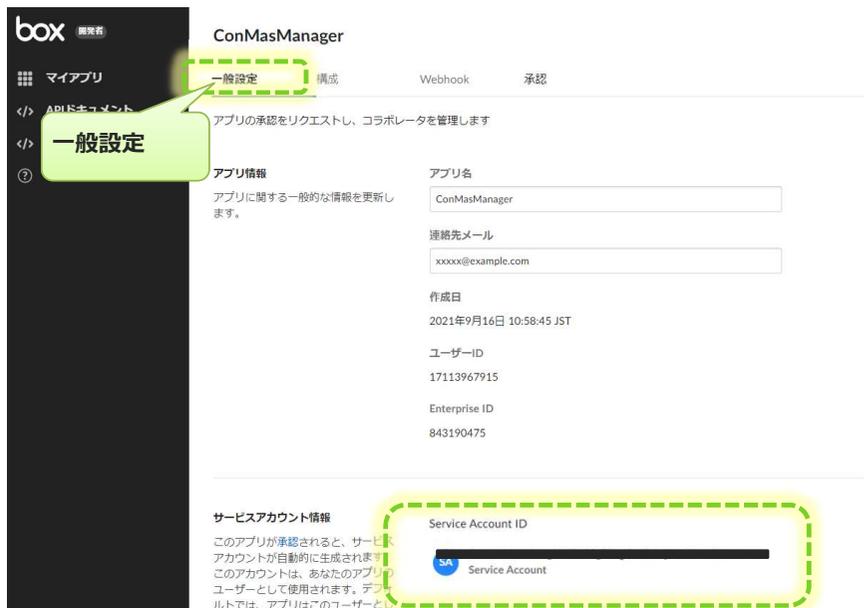
Service Account

このアプリが承認されると、サービスアカウントが自動的に生成されます。このアカウントは、あなたのアプリのユーザーとして使用されます。デフォルトでは、アプリはこのユーザーとして

3-4.アプリの設定

3-4.ファイルを連携するのはサービスアカウントです。

アップロードしたいフォルダーに、サービスアカウントのメールアドレスを共有設定に追加します。



サービスアカウントのメールアドレス



サービスアカウントのメールアドレスを入力し、“編集者として招待”を選択し“送信”します。

送信をクリックします。

Boxに連携する場合の事前設定 ConMas Managerのbox連携設定

box連携設定

ConMasManager - システム管理 - Box連携設定で、Box側の設定時に控えて頂いた3つの設定値を入力します。

- ClientID、Client Secret、Enterprise ID



ClientID、Client Secret、Enterprise IDをそれぞれ入力して登録クリックします。



連携設定が行われると連携情報として、アプリ名と、サービスアカウントのアドレスが表示されます。

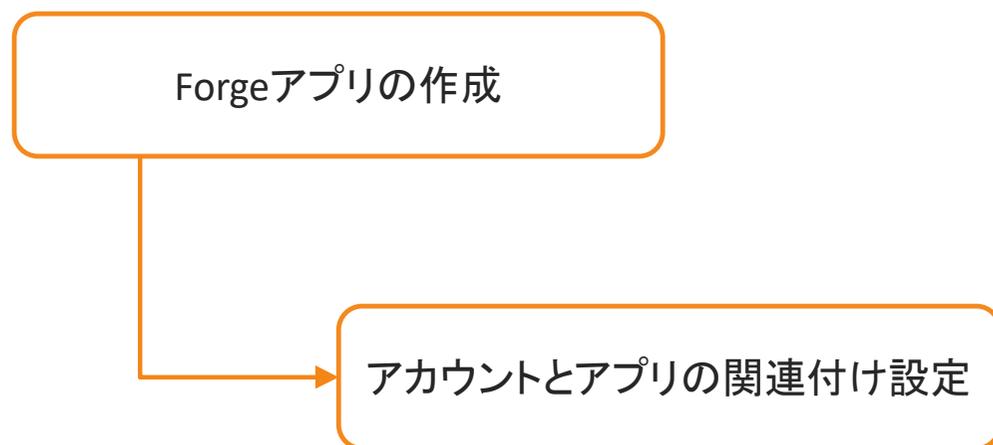
BIM360DOCSに連携する場合の事前設定 BIM360DOCSの設定

BIM360DOCSでの事前設定手順

i-ReporterとBIM360DOCSが連携するにはBIM360DOCS側での以下の事前設定が必要です。

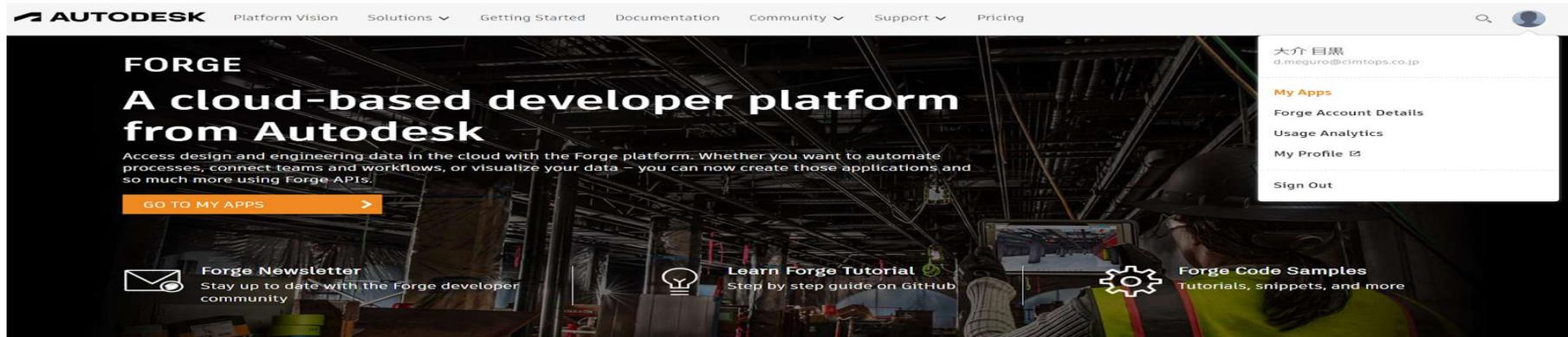
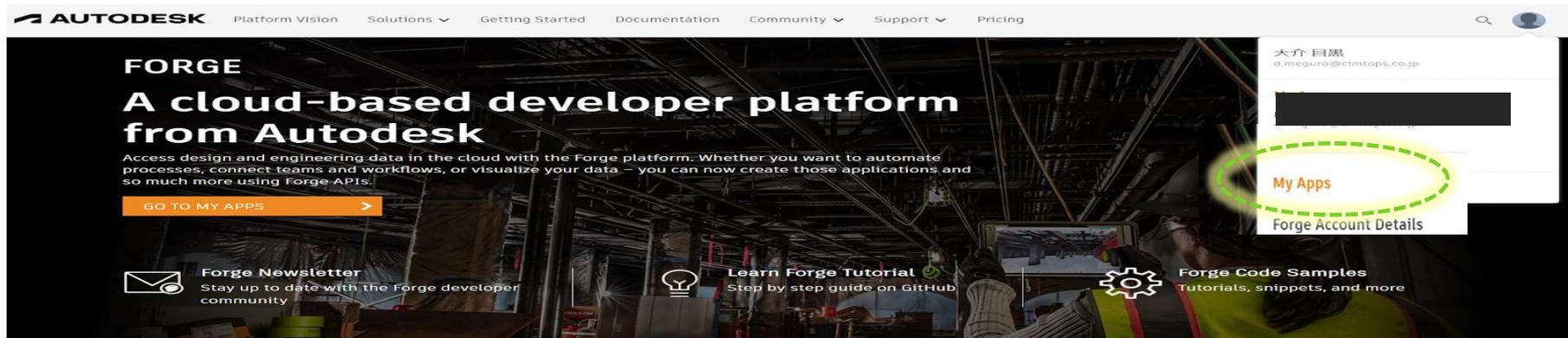
1. BIM360DOCS側で連携用のForgeアプリを作成します。
2. アカウントとアプリとの関連付けの設定を行い、Forgeアプリにアカウント管理者のアクセスを許可します。

BIM360DOCSとi-Reporter間の認証は2-legged 認証を使用します。



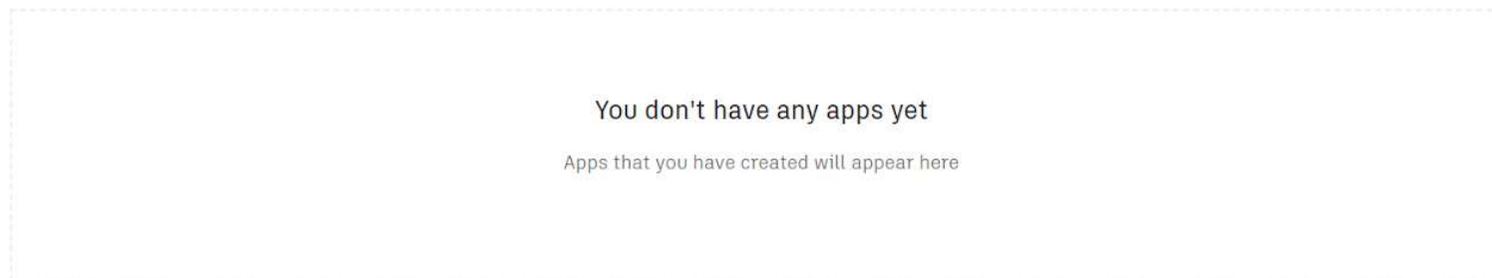
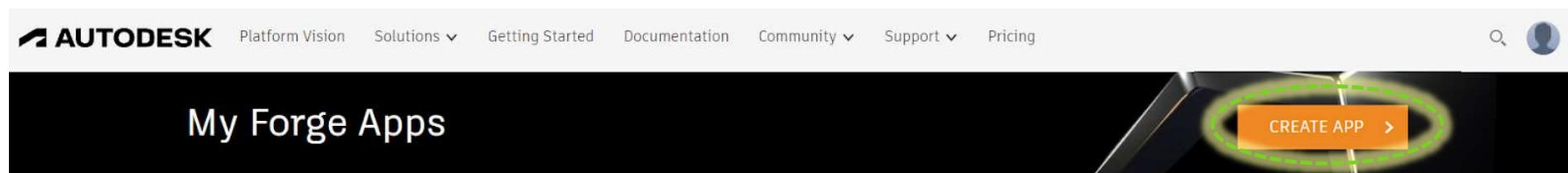
1-1. Forgeアプリを作成

1-1. Webブラウザで Forgeポータル(<https://forge.autodesk.com>)に管理者アカウントでサインインし、「My Apps」に移動します。



1-2. Forgeアプリを作成

1-2. 「My Forge Apps」画面で「CREATE APP」をクリックします。



1-3. Forgeアプリを作成

1-3.設定内容を入力してアプリを作成します。

The image shows a screenshot of the Autodesk Forge 'Create App' wizard. The interface is divided into two main sections: 'App information' and 'APIs'. The 'App information' section includes fields for 'App Name' (filled with 'ConMasManager') and 'App description' (filled with 'i-Reporter自動ファイル出力用'). The 'APIs' section includes a 'Your Website URL' field (filled with 'http://') and a grid of API options. The 'BIM 360 API' and 'Data Management API' are highlighted with a dashed green box. A 'CREATE APP' button is located at the bottom right of the 'APIs' section.

① 「App Name」、「App description」には任意のアプリ名、説明を入力します。

② 「Callback URL」は使用しませんが必須入力のためダミーのURLを入力します。

③ 「APIs」は「BIM 360 API」と「Data Management API」を選択します。

④ 「CREATE APP」をクリックします。

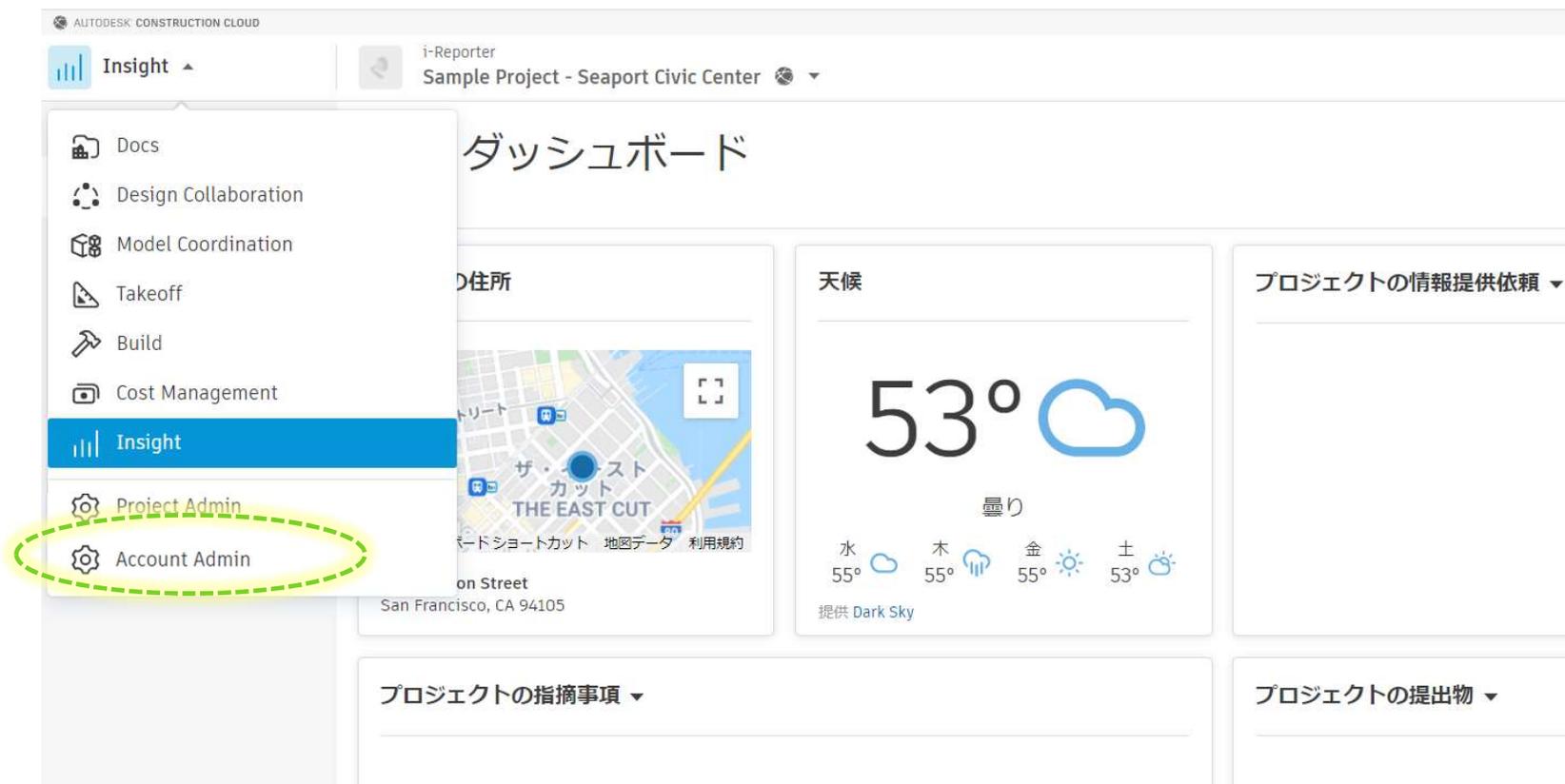
1-4. Forgeアプリを作成

1-4. アプリが作成されたら「Client ID」と「Client Secret」をこの後の設定のために控えておきます。
アカウントとアプリの関連付け設定とManagerの「BIM360連携設定」に使用します。

The image displays two screenshots of the Autodesk Forge Developer Console. The top screenshot shows the 'App Information' page for an application named 'ConMasManager'. The 'Client ID' and 'Client Secret' fields are highlighted with a dashed green box. The 'Client ID' is 't2k56SAzvQFNXgeFDQ5vACG22hrsANCC' and the 'Client Secret' is a masked field with a 'REGENERATE' button. The bottom screenshot shows the same page, but with a green callout box pointing to the 'Client ID' and 'Client Secret' fields, containing the text '後ほどConMasManager側の設定で使用しますので控えます。' (Save these as you will use them in the ConMasManager settings later). The 'App Name' is 'ConMasManager', the 'Description' is 'Reporter自動ファイル出力用', and the 'Callback URL' is 'http://localhost'. The 'APIs' section shows 'Data Management API' as an accessible API.

2-1. アカウントとアプリの関連付け

2-1. Webブラウザで BIM360DOCS(<https://bim360docs.autodesk.com>)に管理者アカウントでサインインし、「Account Admin」に移動します。



2-2.アカウントとアプリの関連付け

2-2.連携対象のプロジェクトの「BIM 360 管理者」に移動します。



The screenshot shows the Autodesk Construction Cloud interface. The top navigation bar includes 'Account Admin' and 'i-Reporter'. The left sidebar contains a menu with items: 'プロジェクト', 'メンバー', 'テンプレート', 'ライブラリ', '設定', 'アプリ', and 'BIM 360 管理者'. The 'BIM 360 管理者' item is highlighted with a green dashed oval. The main content area is titled 'プロジェクト' and shows a table of projects. The table has columns for '名前', '番号', 'タイプ', 'メンバー', '会社', and 'ステータス'. One project is listed: 'Sample Project - Seaport Civic Center' with a status of 'アクティブ'.

名前 ^	番号	タイプ	メンバー	会社	ステータス
Sample Project - Seaport Civic Center	-		1	-	アクティブ

2-3.アカウントとアプリの関連付け

2-3.「設定」を選択します。



2-4.アカウントとアプリの関連付け

2-4.「カスタム統合」タブの「カスタム統合機能を追加」をクリックします。

The screenshot shows the Autodesk Construction Cloud Account Admin interface. The top navigation bar includes 'Account Admin' and the user email 'd.meguro@cimtops.co.jp'. Below the navigation bar, there are tabs for 'プロジェクト', 'メンバー', '会社', '役割', '解析', '設定', and 'アプリ'. The '設定' (Settings) tab is active, and within it, the 'カスタム統合' (Custom Integration) sub-tab is highlighted with a dashed green box. A callout bubble points to this tab with the text: ① 「カスタム統合」をクリックします。 (Click 'Custom Integration').

Below the tabs, there is a section for 'AUTODESK Forge'. It contains a description: 'カスタム統合機能は、あなたの会社が BIM 360 の機能を拡張するために開発したアプリケーションです。' (Custom integration features are applications developed to expand BIM 360 capabilities for your company). Below this, there is a card for 'TestApp1' with a '詳細' (Details) link and a status indicator 'アクティブ' (Active). A callout bubble points to the 'カスタム統合機能を追加' (Add Custom Integration Function) button with the text: ② 「カスタム統合機能を追加」をクリックします。 (Click 'Add Custom Integration Function').

2-5.アカウントとアプリの関連付け

2-5.アクセス権に「Document Management」を指定します。

uro@cimtops.co.jp

役割 解

カスタム統合機能を追加

ビジネス単位

TestA

詳細

アクセス権を選択

- BIM 360 Account Administration
Account Administration の各機能(プロジェクトの作成、サービスのアクティ
ブ化、ビジネス パートナー フォルダ、メンバー フォルダなど)に対する読み
取りと書き込みのアクセス権。
- Document Management
Document Management への読み取りと書き込みアクセス権(フォルダ、ドキ
ュメント、モデル、指摘事項へのアクセス権)。

次へ

① 「Document Management」にチェックを入れます。

② 「次へ」をクリックします。

2-6.アカウントとアプリの関連付け

2-6.Forgeアプリを自身で開発するか外部の開発者を招待するかを指定します。

The screenshot shows a dialog box titled "カスタム統合機能を追加" (Add Custom Integration Function) with a close button (X) in the top right corner. The dialog contains two radio button options: "私は開発者です" (I am a developer) and "開発者を招待" (Invite a developer). The "私は開発者です" option is selected and highlighted with a dashed green box. A callout box points to this option with the text "① 「私は開発者です」を選択します。" (Select "I am a developer"). At the bottom of the dialog, there are two buttons: "戻る" (Back) and "次へ" (Next). The "次へ" button is highlighted with a dashed green box, and a callout box points to it with the text "② 「次へ」をクリックします。" (Click "Next").

① 「私は開発者です」を選択します。

② 「次へ」をクリックします。

2-7. アカウントとアプリの関連付け

2-7. 設定項目を入力して保存すると関連付けの設定が完了します。

The screenshot shows a dialog box titled "カスタム統合機能を追加" (Add Custom Integration Function). It contains the following elements:

- Account ID:** A text field containing a masked ID. A checkbox labeled "アカウント ID 情報を安全に保存しました。" (I have safely saved the account ID information.) is checked. Callout ① points to this checkbox.
- Forge Client ID:** A text field labeled "* Forge クライアント ID" containing a masked ID. Callout ② points to this field.
- Application Name:** A text field labeled "* アプリ名" containing the text "ConMasManager". Callout ③ points to this field.
- Save Button:** A blue button labeled "保存" (Save) at the bottom right. Callout ④ points to this button.

Callout ①: 「アカウントID情報を安全に保存しました。」にチェックを入れます。

Callout ②: 「Forge クライアントID」には「Forgeアプリの作成4」で控えた「Client ID」を入力します。

Callout ③: 任意のアプリ名を入力します。

Callout ④: 「保存」をクリックします。

BIM360DOCSに連携する場合の事前設定 ConMas ManagerでのBIM360DOCS連携設定

BIM360DOCS連携設定

ConMasManager - システム管理 - BIM360DOCS連携設定で、BIM360DOCS側の設定時に控えておいた3つの設定値を入力します。

- ClientID、Client Secret

The screenshot shows the 'システム管理' (System Management) menu with 'BIM360連携設定' (BIM360 Integration Settings) selected. The page is divided into two main sections: 'BIM360認証設定' (BIM360 Authentication Settings) and 'BIM360連携情報' (BIM360 Integration Information). The authentication section has fields for 'Client ID' and 'Client Secret'. The integration information section has fields for 'ハブID' (Hub ID), 'ハブ名' (Hub Name), 'プロジェクトID' (Project ID), and 'プロジェクト名称' (Project Name). A green dashed box highlights the 'BIM360認証設定' section, with an arrow pointing to a callout box.

ClientID、Client Secretをそれぞれ入力して
認証クリックします。

This is a close-up of the 'BIM360DOCS認証設定' (BIM360DOCS Authentication Settings) form. It contains two input fields: 'Client ID' and 'Client Secret'. A blue '認証' (Authenticate) button is located at the bottom left of the form. A green dashed box surrounds the entire form, and a green arrow points from the callout box above to the '認証' button.

連携設定ができると、ハブ情報、プロジェクト情報
が表示されます。

This is a close-up of the '連携対象プロジェクト選択' (Select Project to Integrate) form. It features a list of projects with checkboxes: 'i-Reporter (ID: [redacted])', 'XX検査PJ (ID: [redacted])', and 'Sample Pro [redacted]'. The 'Sample Pro' checkbox is checked. Below the list are '登録' (Register) and 'キャンセル' (Cancel) buttons. A green dashed box surrounds the form, and a green arrow points from the callout box below to the '登録' button.

連携するBIM360DOCSのプロジェクトにチェック
を入れて登録クリックします。

This is a close-up of the 'BIM360DOCS連携情報' (BIM360DOCS Integration Information) form. The fields are now populated with data: 'ハブID' is 'b', 'ハブ名' is 'b', 'プロジェクトID' is 'b', and 'プロジェクト名称' is 'b'. A green dashed box surrounds the form, and a green arrow points from the callout box above to the 'ハブID' field.

帳票定義毎の
アップロード先フォルダーの設定
(Googleドライブ,Box,Bim360DOCS共通)

外部システム出力設定

- Googleドライブ、Box、BIM360DOCSに連携するかどうかを設定します。
※最大2サービスまでです。

The screenshot shows the '帳票定義' (Form Definition) page for '定義名：クラスター全 -総合テスト用★-'.

帳票定義 (Form Definition) menu items: 入力帳票, データ出力, 自動帳票作成, ラベル管理, 図書管理.

外部システム出力先設定 (External System Output Destination Settings) table:

サービス名	連携しない	連携する
Googleドライブ	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
Box	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
BIM360	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>

自動ファイル出力設定 (Automatic File Output Settings) table:

設定項目	しない	する
連携済み自動出力ファイルの削除	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
連携エラー時の帳票保存処理	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>

Callouts:

- 編集ボタンをクリック。 (Click the edit button.)
- 連携するサービスを設定します。 ※2サービスまで (Set the service to be linked. ※Up to 2 services)
- 3つを"連携する"では保存できません。 (You cannot save with 3 services set to "link").

Bottom Note: 選択可能な連携する出力先数は2件までです。 (The number of selectable linked output destinations is limited to 2.)

自動ファイル出力設定

●連携済み自動アップロードファイルの削除

しない：各サービスへ連携した後もi-Reporterサーバー上に自動アップロードファイルが残ります。（既定値）

する：各サービスへ連携後、i-Reporterサーバー上から自動アップロードファイルを削除します。

●連携エラー時の帳票保存処理

失敗させる：各サービスへファイルが連携できなかった場合、i-ReporterアプリからConMasサーバーへの帳票保存を失敗させます。（既定値）

成功させる：各サービスへファイルが連携できなかった場合でもi-ReporterアプリからConMasサーバーへの帳票保存を成功させます。

定義名：クラスター全 -総合テスト用★-

登録 キャンセル

▼外部システム出力先設定

Googleドライブ	<input checked="" type="radio"/> 連携しない <input type="radio"/> 連携する
Box	<input type="radio"/> 連携しない <input checked="" type="radio"/> 連携する
BIM360	<input checked="" type="radio"/> 連携しない <input type="radio"/> 連携する

▼自動ファイル出力設定

連携済み自動出力ファイルの削除	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
連携エラー時の帳票保存処理	<input checked="" type="radio"/> 失敗させる <input type="radio"/> 成功させる

登録 キャンセル

Googleドライブへの出力設定

Googleドライブへのアップロード設定

- 帳票定義の『基本情報』の『Googleドライブ出力先設定』から出力先設定を行います。

帳票定義

入力帳票 データ出力 自動帳票作成 ラベル管理 図書管理 スケジュール カスタムマスター

一覧へ戻る 定義名：画像游ゴシック

▼Googleドライブ出力先設定

Googleドライブのフォルダーの指定

Googleドライブのフォルダーを選択 GoogleドライブのフォルダーIDを直接入力

共有ドライブ

- TEST
 - ベース
- TEST2

指定したGoogleドライブのフォルダー配下に作成するフォルダー設定

{defTopName}

編集ボタンをクリック。

Googleドライブの出力先設定の編集画面を表示。

登録 キャンセル

▼Googleドライブ出力先設定

Googleドライブのフォルダーの指定

Googleドライブのフォルダーを選択 GoogleドライブのフォルダーIDを直接入力

共有ドライブ

- TEST
 - ベース
- TEST2

指定したGoogleドライブのフォルダー配下に作成するフォルダー設定

{defTopName}

登録 キャンセル

Googleドライブのアップロード先フォルダーの設定

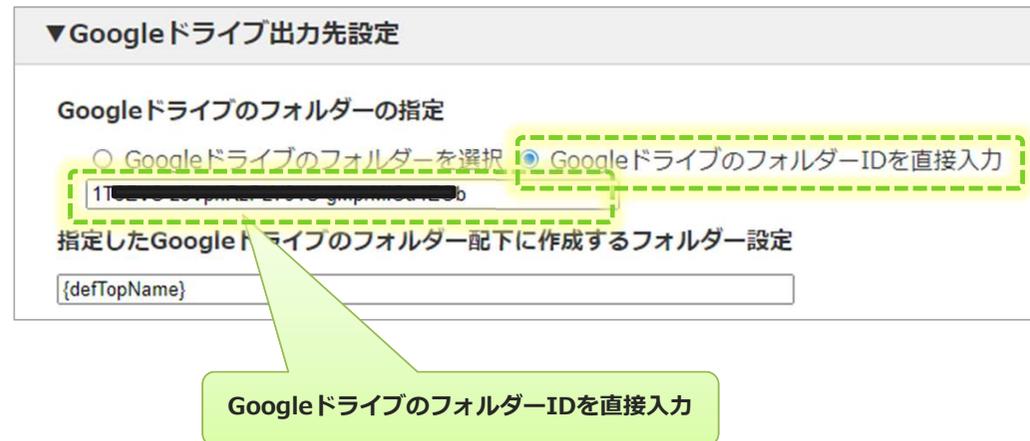
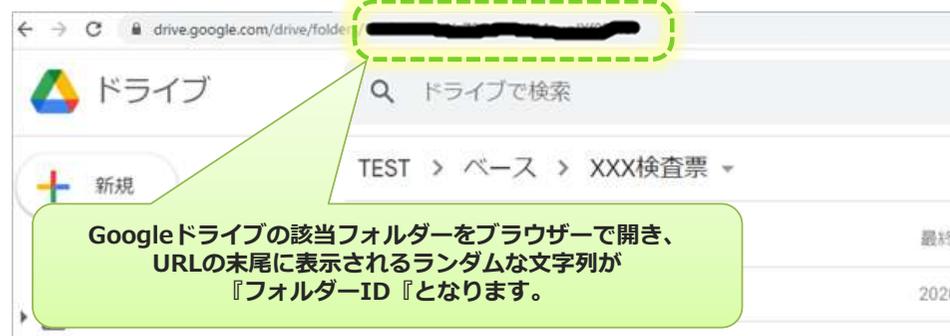
Googleドライブのアップロード先は、Googleドライブの既存フォルダーから指定します。また、そのフォルダーの配下に帳票の情報等を使用してフォルダー階層を自動生成することも、可能です。

● Googleドライブのフォルダーの指定（必須）

Googleドライブの既存のフォルダーからアップロード先を以下のどちらかの方法で指定します。

- **Googleドライブのフォルダーを選択**
Googleドライブのフォルダー構成よりフォルダーを選択して指定します。
- **GoogleドライブのフォルダーIDを直接入力**
GoogleドライブのフォルダーIDを直接入力して指定します。

フォルダーIDとは



入力帳票単位のGoogleドライブ連携履歴情報の参照

入力帳票の基本情報画面から、Googleドライブへ連携したファイルの履歴を参照できます。

- 連携日時：連携した日時をyyyy/MM/dd HH:mm:ss形式で表示。
- i-Reporterユーザー：連携時のi-ReporterユーザーIDと名称を表示。
- 連携フォルダー：連携したGoogleドライブ上のフォルダー名とID値を表示。連携失敗時は空白。
- 連携ファイル：自動アップロードファイル名とGoogleドライブ上のID値を表示。連携失敗時は空白。
- 成否：成功時は表示なし。Googleドライブ側でエラー発生した場合、Googleから返されたエラーコードを表示。

連携日時	i-Reporterユーザー	連携フォルダー	連携ファイル	成否
2020/11/05 13:59:26	[REDACTED]	TEST/ベース/Manager総合テスト用定義 引継 (ID: [REDACTED])	Manager総合テスト用定義 引継 _TTF7869D_5_3601.xml(ID: [REDACTED]bxm)	
2020/11/05 13:59:23	[REDACTED]	TEST/ベース/Manager総合テスト用定義 引継 (ID: [REDACTED])	Manager総合テスト用定義 引継 _TTF7869D_5_3601_dataoutput.csv(ID: [REDACTED]v)	

Boxへの出力設定

Boxへのアップロード設定

- 帳票定義の『基本情報』の『Box出力先設定』から出力先設定を行います。

帳票定義 入力帳票 データ出力 自動帳票作成 ラベル管理 図書管理 スケジュール カスタムマスター

一覧へ戻る 定義名: 帳票コピー確認用_参照先文字列_23数値選択

基本情報
1:各クラスター
通知メッセージ設定
ラベル
定義
帳票
direct通知設定
1:各クラスター
Webhook通知設定
1:各クラスター
権限
定義 / 帳票
クラスター
1:各クラスター
音声認識辞書
外部システム出力設定
Googleドキュメント出力先設定
Box出力先設定
M360出力先設定

▼ Box出力先設定

Boxのフォルダーの指定

Boxのフォルダーを選択 BoxのフォルダーIDを直接入力

ConMasManager
TEST
フォルダ

指定したBoxのフォルダー配下に作成するフォルダー設定

登録 キャンセル

▼ Box出力先設定

Boxのフォルダーの指定

Boxのフォルダーを選択 BoxのフォルダーIDを直接入力

ConMasManager
TEST
LEVEL1
フォルダ

指定したBoxのフォルダー配下に作成するフォルダー設定

登録 キャンセル

編集ボタンをクリック。

Boxの出力先設定の編集画面を表示。

Boxのアップロード先フォルダーの設定

Boxのアップロード先は、Boxの既存フォルダーから指定します。また、そのフォルダーの配下に帳票の情報等を使用してフォルダー階層を自動生成することも可能です。

● Boxのフォルダーの指定（必須）

Boxの既存のフォルダーからアップロード先を以下のどちらかの方法で指定します。

・ Boxのフォルダーを選択

Boxのフォルダー構成よりフォルダーを選択して指定します。

・ BoxのフォルダーIDを直接入力

BoxのフォルダーIDを直接入力して指定します。

フォルダーIDとは



▼ Box出力先設定

Boxのフォルダーの指定

Boxのフォルダーを選択 BoxのフォルダーIDを直接入力

指定したBoxのフォルダー配下に作成するフォルダー設定

{defTopName}

Boxのフォルダーを選択

▼ Box出力先設定

Boxのフォルダーの指定

Boxのフォルダーを選択 BoxのフォルダーIDを直接入力

指定したBoxのフォルダー配下に作成するフォルダー設定

{defTopName}

BoxのフォルダーIDを直接入力

入力帳票単位のBox連携履歴情報の参照

入力帳票の基本情報画面から、Boxへ連携したファイルの履歴を参照できます。

- 連携日時：連携した日時をyyyy/MM/dd HH:mm:ss形式で表示。
- i-Reporterユーザー：連携時のi-ReporterユーザーIDと名称を表示。
- 連携フォルダー：連携したBox上のフォルダー名とID値を表示。連携失敗時は空白。
- 連携ファイル：自動アップロードファイル名とBox上のID値を表示。連携失敗時は空白。
- 成否：成功時は表示なし。Box側でエラー発生した場合、Boxから返されたエラーコードを表示。

Box連携履歴

連携日時	i-Reporterユーザー	連携フォルダー	連携ファイル	成否
2022/01/13 11:59:21	[REDACTED]	TEST/LEVEL1/画像遊ゴシック	20220113115922.044_11052_67766_画像遊ゴシック.d[REDACTED]	成功
2022/01/13 11:59:21	[REDACTED]	TEST/LEVEL1/画像遊ゴシック	20220113115922.044_11052_67766_画像遊ゴシック.pd[REDACTED]	成功
2022/01/13 11:59:21	[REDACTED]	TEST/LEVEL1/画像遊ゴシック	20220113115922.044_11052_67766_画像遊ゴシック.xl[REDACTED]	成功
2022/01/13 11:59:21	[REDACTED]	TEST/LEVEL1/画像遊ゴシック	20220113115922.044_11052_67766_画像遊ゴシック_67766_1_cluster_0.png (ID: 005103010075)[REDACTED]	成功

BIM360DOCSへの出力設定

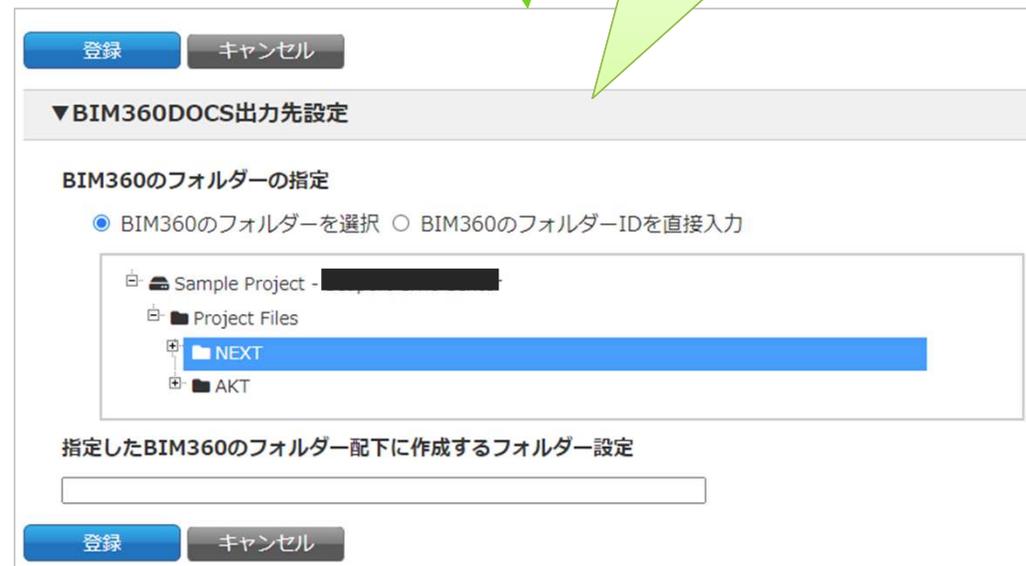
BIM360へのアップロード設定

- 帳票定義の『基本情報』の『BIM360DOCS出力先設定』から出力先設定を行います。



編集ボタンをクリック。

BIM360DOCSの出力先設定の編集画面を表示。



BIM360DOCSのアップロード先フォルダーの設定

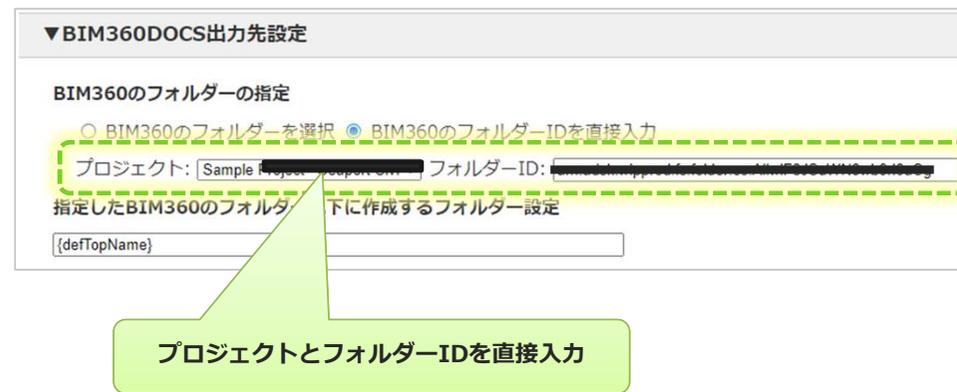
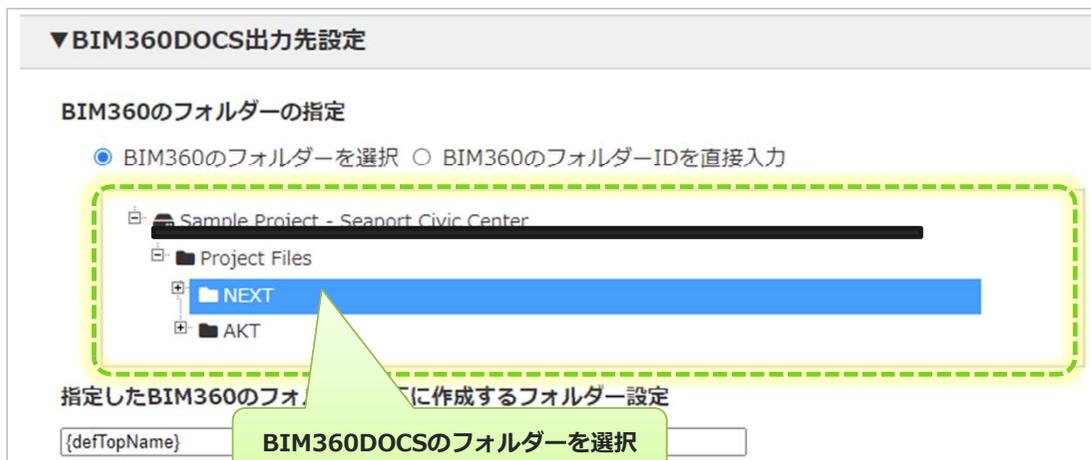
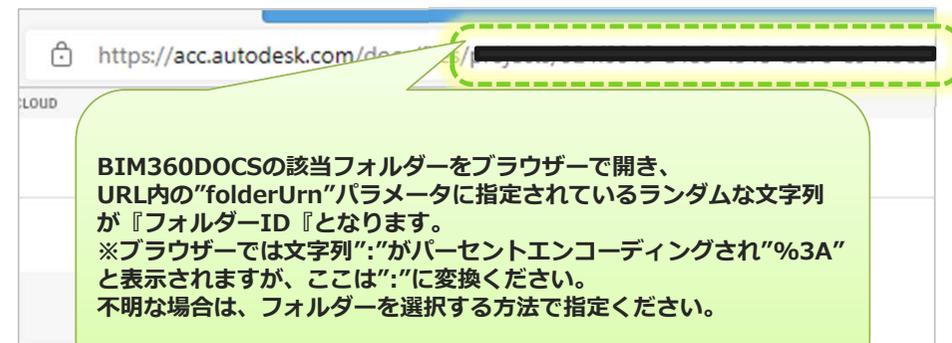
BIM360DOCSのアップロード先は、BIM360DOCSの既存フォルダーから指定します。また、そのフォルダーの配下に帳票の情報等を使用してフォルダー階層を自動生成することも可能です。

● BIM360DOCSのフォルダーの指定（必須）

BIM360DOCSの既存のフォルダーからアップロード先を以下のどちらかの方法で指定します。

- ・ **BIM360DOCSのフォルダーを選択**
BIM360DOCSのフォルダー構成よりフォルダーを選択して指定します。
- ・ **BIM360DOCSのフォルダーIDを直接入力**
BIM360DOCSのフォルダーIDを直接入力して指定します。

フォルダーIDとは



入力帳票単位のBIM360DOCS連携履歴情報の参照

入力帳票の基本情報画面から、BIM360DOCSへ連携したファイルの履歴を参照できます。

- 連携日時：連携した日時をyyyy/MM/dd HH:mm:ss形式で表示。
- i-Reporterユーザー：連携時のi-ReporterユーザーIDと名称を表示。
- 連携フォルダー：連携したBIM360DOCS上のフォルダー名とID値を表示。連携失敗時は空白。
- 連携ファイル：自動アップロードファイル名とBox上のID値を表示。連携失敗時は空白。
- 成否：成功時は表示なし。BIM360DOCS側でエラー発生した場合、BIM360DOCSから返されたエラーコードを表示。

表示件数 20 1 / 1

連携日時	i-Reporterユーザー	連携フォルダー	連携ファイル	成否
2022/01/18 19:21:39	[REDACTED]	Project Files/NEXT/写真帳 1	20220118192139.352_11054_67781_写真帳 1.csv(ID: [REDACTED])	
2022/01/18 19:21:39	[REDACTED]	Project Files/NEXT/写真帳 1	20220118192139.352_11054_67781_写真帳 1.pdf(ID: [REDACTED])	
2022/01/18 19:21:39	[REDACTED]	Project Files/NEXT/写真帳 1	20220118192139.352_11054_67781_写真帳 1.xlsx(ID: [REDACTED])	
2022/01/18 19:21:39	[REDACTED]	Project Files/NEXT/写真帳 1	20220118192139.352_11054_67781_写真帳 1_67781_2_cluster_0.png(ID: [REDACTED])	

表示件数 20 1 / 1

BIM360DOCS連携履歴

既存フォルダー配下に作成するフォルダーの設定 (Googleドライブ,Box,Bim360DOCS共通)

フォルダー自動生成の設定（既存フォルダーの配下）

●各サービスで指定した既存のフォルダー配下に作成するフォルダー設定（任意）

既存のフォルダーの配下に帳票の情報等を使用してフォルダー及びフォルダー階層を自動生成することが出来ます。
置換文字列を利用することで保存された入力帳票の情報等を、フォルダー名に利用できます。

※ 『/』 はフォルダー階層を表す予約文字です。クラスター値や備考値の 『/』 は文字として扱われます。

置換文字列	置換される値
{date}	サーバー保存時の日付(『yyyyMMdd』形式)
{dateTime}	サーバー保存時の日付(『yyyyMMddHHmmss』形式)
{time}	サーバー保存時の日付(『HHmmss』形式)
{defTopName}	帳票定義名称
{repTopName}	入力帳票名称
{remarks1}	帳票備考 1
...	...
{remarks10}	帳票備考 1 0
{defTopId}	帳票定義ID
{repTopId}	入力帳票ID
{publicStatus}	公開ステータス
{editStatus}	編集ステータス
{cluster_[シート番号]_[クラスター-index]}	クラスター値 例) シート番号= 1、クラスター-index=5 のクラスターの場合 {cluster_1_5}

Googleドライブでの設定例

■ Googleドライブアップロード先の設定

- 指定したGoogleドライブのフォルダー
TEST¥ベース
- 指定したフォルダー配下に生成するフォルダーの設定詳細設定
{defTopName}/{cluster_1_0}
の記述で以下の階層からなる2つのフォルダーを生成します。
→[定義名称]
→[シート1のクラスターindex0(日付クラスター)の値]



上記の設定を行なうと、以下のアップロード結果となります。

■ Googleドライブアップロード結果

- 指定したGoogleドライブのフォルダー
TEST¥ベース
- 指定したフォルダー配下に生成したフォルダー
→(最新デモ_サンプル) 全インプットサンプル = 定義名称
→ 2020/11/02 = 日付クラスターの年月日値

▼ Googleドライブ出力先設定

Googleドライブのフォルダーの指定

Googleドライブのフォルダーを選択 GoogleドライブのフォルダーIDを直接入力



指定したGoogleドライブのフォルダー配下に作成するフォルダー設定

{defTopName}/{cluster_1_0}

TEST > ベース > (最新デモ_サンプル) 全インプットサンプル > 2020/11/02

名前 ↑	最終更新	ファイルサイズ
 go_202011021721_(最新デモ_サンプル) 全インプ...	17:21	██████████ KB
 go_202011021721_(最新デモ_サンプル) 全インプ...	17:22	██████████ 712 KB
 go_202011021721_(最新デモ_サンプル) 全インプ...	17:21	██████████ KB
 go_202011021721_(最新デモ_サンプル) 全インプ...	17:21	██████████ 712 KB
 go_202011021721_(最新デモ_サンプル) 全インプ...	17:22	██████████ 60 KB
 go_202011021721_(最新デモ_サンプル) 全インプ...	17:21	██████████ 486 KB

注意事項

- Googleドライブ、Box、BIM360DOCSの設定画面は各サービス側により変更される可能性があります。
- これらの各種連携が完了するまで、アプリで帳票保存は「完了」しません。
- 最大 2 サービスまで連携設定が可能ですが、大きな帳票データの場合は時間がかかることがあります。
この場合、アプリのタイムアウトにご注意ください。
タイムアウトしてしまう場合は、アプリのタイムアウト設定を伸ばして回避ください。